



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 307
October
2018

トピックス

ADRC客員研究員 レポート

アジス・マズニ
(マレーシア)

国際会議への参加

APEC 第12回防災担当上
級事務レベルフォーラム
(SDMOF) 会合

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2018

●ADRC客員研究員レポート アジス・マズニ (マレーシア)

私はマレーシアから参りました アジス・マズニと申します。結婚して2人の息子がおります。マレーシアは、多様な人種・言語・文化が共生する多民族国家です。マレー系、中華系、インド系以外にも様々なエスニックグループが共生しているのは、アジアではマレーシアだけです。地理的には、マレーシアは赤道の近くに位置し、熱帯雨林気候のため、気温、湿度共に高く雨も多くふりますが、世界最古の熱帯雨林やビーチ、離島など多くの観光スポットを有しています。



私は2005年にマレーシア大学で物理を専攻し理学士号を取得した後、2011年に国立政策研究所において、防災対策について学び修士号を取得しました。

現在私は、マレーシア気象局気象・地球物理学オペレーションセンターにおいて、気象地球物理技術科課長として働いています。マレーシア気象局は、エネルギー、科学技術、環境、気候変動省に属し、気候変動、異常気象、地震・津波の脅威からマレーシアを守る責任を担っています。

マレーシア気象局は、2020年までに、気象学、気候学、地球物理学の分野において、気象・地球物理学オペレーションセンターがアジアで一番になることを目標としています。私は気象地球物理技術科課長として、地震・津波の観測・分析システムの作動確認、地震・津波の警報の迅速な伝達を担当してきました。また、防災意識の啓発や、異常気象、地震・津波の訓練も実施してきました。

私はこのプログラムを通して、日本の防災の仕組み、優良事例などについての知見を深め、自国で共有したいと考えています。

最後になりますが、このような機会を提供して頂いた日本政府、常にサポートして頂いているADRC職員に心から感謝を申し上げます。

Thank you.

●国際会議への参加

APEC 第12回防災担当上級事務レベルフォーラム (SDMOF) 会合

2018年9月25日から26日、パプアニューギニアの東ニューブリテン州コポにおいて、APEC 第12回防災担当上級事務レベルフォーラム (SDMOF) 会合が開催されました。

続き

今回の会合は、主に早期警報をテーマに行われ、アジア防災センターからは所長が出席し、衛星技術を活用した早期警報について発表しました。

日本のタスクフォースチームでは、準天頂衛星システム(QZSS)を活用した早期警報のアプリケーションについて研究の実施を計画しています。このシステムを活用すれば、指定された場所へ日本の測位衛星システムであるQZSSを通じて、早期警報のメッセージを配信することができます。地上の基地通信システムが使用できない場合でも、QZSSによって、早期警報メッセージをスマートフォンや看板でテキストと音声で受信することができます。

ADRCはこの技術について、アジア及び太平洋地域のパートナーとフィージビリティスタディを行いたいと考えています。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。